

ツユクサ科の分類学@ひとはく 2年目

「ケツユクサ」は何なんだ



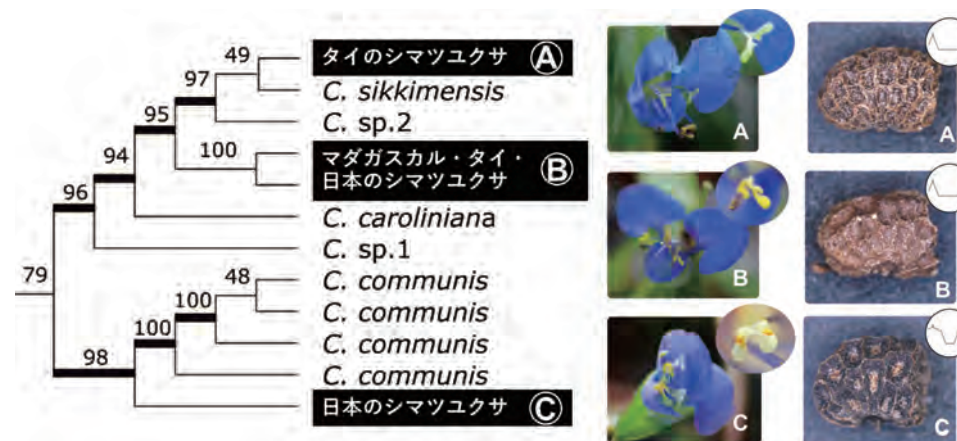
自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

李 忠建

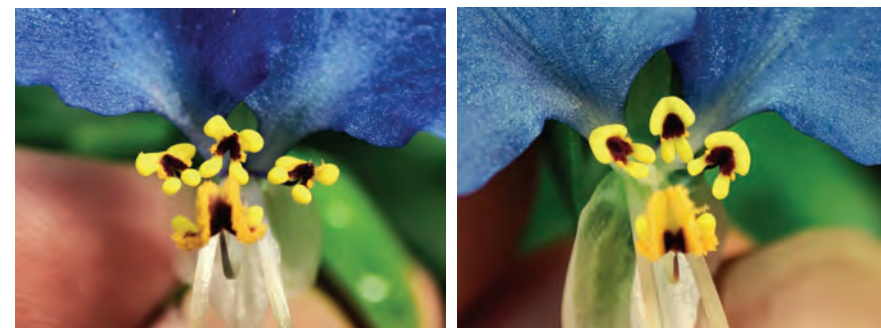
私は、アジアのツユクサ科について調べています。日本でのツユクサ科のイメージは、ツユクサがいたるところで青い花を咲かせ、愛でられたり駆除されたりする、といったところですが、ツユクサ科は基本的に熱帯に多い植物で、世界には約40属650種、日本には5属13種があります。

ツユクサの中には、「ケツユクサ」と呼ばれるものがあります。谷折りになって花の付け根を挟んでいる葉のような部分がありますが、外側の面に毛が生えているのです。染色体の数が半分しかないということが指摘されており、雄しべの形など他にも違いがあると言われています。DNA解析で2つに分かれるなら別種扱いが妥当ですが、予備解析では少し複雑そうです。

ツユクサ科には似たような問題が山積みです。もちろん簡単には行かないのですが、はやく一番身近なツユクサの問題をやっつけたいと思います。続きは来年のパネルで。



シマツユクサの系統樹と形態比較。特にCのものが大きく異なる。系統樹は葉緑体のもの。核DNAではもっと面白い結果が出ているが、その分複雑なため追加解析が必要。



S普通のツユクサとケツユクサ。繁殖干渉の研究に使われた。